

大阪大学と三井不動産の連携による今後の主な取組み

1. 人材育成・教育に関すること

- ▶ 大阪大学の課題解決型授業（PBL (Project Based Learning)）の場として EXPOCITY を活用し、学生が実社会の課題や事例を素材として、問題解決に向けた実践的思考を『学ぶ』ことにより、優秀な人材を育成します。

現在、活用を検討しているのは以下の「博士課程教育リーディングプログラム」です。

- ・グローバル社会をけん引するトップリーダーの養成を目指す「超域イノベーション博士課程プログラム」
 - ・新しい情報システムをデザインし、イノベーションの方向を転換へと導く人材を育成する「ヒューマンウェアイノベーション博士課程プログラム」
- ▶ 留学生を対象に職業体験プログラム等のインターンシップを実施します。
大阪大学に留学中のカルフォルニア大学 (UC) 等の学生を対象とした、英語を楽しみながら学ぶ、体験型英語教育施設「Osaka English Village」でのインターンシッププログラムを平成 30 年度に試行予定です。

2. 調査・研究に関すること

- ▶ EXPOCITY を研究対象、実証実験、研究発表の場として活用することで、イノベティブな研究を推進し、EXPOCITY 来場者の『学ぶ』楽しさを刺激します。

現在、活用を検討している主な研究者は以下のとおりです。

○石黒 浩教授（基礎工学研究科）

- ・ロボットやプロジェクションマッピングを海遊館が運営する「NIFREL(ニフレル)」に設置し、動物や来館者がどのように反応するかの研究
- ・ロボットやアンドロイドを Osaka English Village に設置し、教育での活用法を研究
- ・EXPOCITY にロボットやアンドロイドを設置し、来場者とのコミュニケーションを研究

○松村 真宏教授（経済学研究科）

- ・EXPOCITY に「人々がつい行動したくなる」ように仕向ける仕掛けを設置して、人々の行動分析や課題解決をする『仕掛学』の実証実験や研究発表

○東野 輝夫教授、山口 弘純准教授（情報科学研究科）

- ・EXPOCITY 来場者の誘導等を円滑に行うための、通信機器を活用した人流解析に関する研究

○若宮 直紀教授（情報科学研究科）

- ・センサーを活用した地盤などの微細な変動を測定する地理・構造の観測に関する研究

○村田 正幸教授、荒川 伸一准教授（情報科学研究科）

- ・複合現実技術を用いたショッピング体験等サービスを快適にするネットワーク技術の研究

3. 共創事業に関すること

- EXPOCITY での大学イベント、サイエンスカフェなどの開催を通じて、地域住民や企業と大学が双方向に話し合えるオープンコミュニティを構築し、EXPOCITY 来場者と共に『学ぶ』楽しさを感じられる空間を創出します。

4. その他

- EXPO TV（館内約 100 か所あるモニター）において、「進歩+調和=未来」というテーマの大阪大学の研究者紹介等のショートムービーを放映することで、年間 2000 万人を超える EXPOCITY 来場者に『学ぶ』楽しさを感じられる空間を演出します。